

備 前 市 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

(平成24年度事業)

事業の概要			
事業開始年度	平成17年		
根拠法令・例規等	健康増進法・食育基本法 備前市健康づくり推進協議会条例		
大項目 基本目標	02	健康でやさしさあふれるまちづくり	
中項目 基本施策	06	健やかで生き生きしたまちづくり	
小項目 施策	06	健康づくり	
事務事業名	03	健康づくり推進協議会事業	
問 担当課(室)	保健課		
合 職・氏名	健康係長・春名 美郎		
先 電 話	64-1820		
このシート作成に要した時間	1.5 時間		

事業の意図
する成果とつ
ながる成果指
標を設定

事業の目的	
対 象 (誰・何に対して)	乳幼児期から高齢期までの市民
目 的 (何のために)	市民の健康の保持及び増進のために必要な対策の検討並びに総合保健計画の立案とその施策の推進を図る。
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	健康づくり推進協議会で必要とされた施策を実施することにより、市民一人ひとりが主体的に健康づくりや食育 (どのような状態にしたいのか) 増進する。

事業の目的、
対象、内容を
考えながら妥
当性を評価

事業の実績			
事業名	事業の説明	優先度	
健康づくり推進協議会事業	健康づくり推進協議会を開催し、健康びぜん21計画に沿った保健事業の進捗状況をもとに、必要な対策や取り組みについて検討し、毎年の事業計画を作成する。平成20年度は健康びぜん21の中間見直し及び備前市食育推進計画の策定にあたった。目標年度である平成25年は次期計画策定の委員会を兼ねる予定。		
目的を達成するため実施した事業			

事業費や受
益者負担比
率、単位当
りコストに留
意しながら効
率性を評価

事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
決算額	事業費	千円	59	189	197
	必要人員費	人件費	0.28人	1,962	2,365
	事業費		2,021	2,554	3,693
	国庫支出金	千円			
	受益者負担				
	繰入金				
	市債				
	その他				
	一般財源		2,021	2,554	3,693
	受益者負担比率	%	-	-	-
結果指標名		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
会議開催回数		説明	健康づくり推進協議会の年間開催回数		
結果指標	結果指標量		1	2	2
	対前年比	%	-	200.0%	100.0%
	活動コスト	円	2,021,000	2,554,000	3,693,000
	単位当たりコスト		2,021,000	1,277,000	1,846,500

事業の成果						
成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値	
「健康びぜん21」ライフステージの重点目標(11項目)のうち前年度より達成目標に近づいた指標の数	目標値(A)	11	11	11	11	到達目標値
	実績値(B)	1	5	6	6	
	達成率(B/A)	9.09%	45.45%	54.55%	54.55%	
成果指標設定の考え方・式や説明						
「健康びぜん21」ライフステージの重点目標 ①産前産後の減少(乳幼児期3・6歳) 朝食を毎日食べる人の増加・小学6年生・中学3年生(学童・思春期) 節目健診者数の増加(青・壮年期) ②12.5以上の人の減少(中年期) 介護保険認定率の維持(高齢期) 朝食を毎日食べる人の増加・3歳6カ月児(食育推進計画) 年に一度、健診を受ける人の増加(壮年期) ③喫煙者の減少・男性・女性(青・壮年期) ④2日以上運動をしている人の増加(40歳代)のうち前年度より達成目標に近づいた指標の数(- は平成22年度より「市民意識調査」に追加)(- はH23 - はH25年・中2年に変更)						

事業の目的やその数値目標
である成果指標に留意しながら

事務事業の評価			該当する項目を から へ < 「コピー」して「貼り付け」してください>	Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	必要性	市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である 事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 ABCDE 高や普や低 いや通やい 高 低 い しい A
	市民ニーズ		市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト	手段	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である 受益者負担率を見直す余地がある サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 ABCDE 高や普や低 いや通やい 高 低 い しい C
	目的達成度	市民参画度	成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 ABCDE 高や普や低 いや通やい 高 低 い しい B

進行年度(H25年度)の改革改善内容						
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	今年度は、第2次健康づくり計画の策定を予定しており、年4回の協議会を開催する予定。健康づくりアンケートを1000人を対象に実施し、その他データとともに分析し、現計画の最終評価を行うとともに、市の健康課題を明確にし、市の健康づくり活動の方向性を協議できるような会の運営を行う。					

総合評価	
今年度の協議会で今後10年間の備前市の健康づくりの方向性を協議していくこととなる。現計画の最終評価を行っていくが、成果指標をみても改善されていない健康課題が多く残る。今後アンケートのデータ等から、ライフステージ別の健康課題を改めて明確にすることで、各協議会委員が中心になって主体的に健康づくりを推進し、市民の健康づくりの輪が広がるよう、協議会の運営を行う必要がある。	総合評価 ABCDE 高や普や低 いや通やい 高 低 い しい B

平成26年度の方向性・取組目標						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
取組目標	第2次健康づくり計画の市民への周知をあらゆる機会に行い、市民の健康づくりの指針となるよう計画の実践を推進する。					

Action